

平成29年度（第2回）

# 研修視察報告書

平成29年11月23日（木）～24日（金）

音更町議会 公正クラブ

## 視察場所及び視察テーマ

1 北海道知内町

全国初のカラマツCLT（直交集成板）住宅工法による「しりうち地域産業担い手センター（研修・宿泊施設）」

2 弘前道の駅 サンフェスタいしかわ

小さいながらも、地域密着、女性の力で年間50万人の集客と7億円を売り上げる道の駅



<平成29年11月24日 道の駅ひろさきにて>

# 視察調査行程表

## 視察調査行程表

日時	発	発場所	着	着場所	備考
11月23日	6:00	音更町	13:00	知内町	5人乗り自家用車
	13:00~14:00 しりうち地域担い手産業センター視察				高速道路利用
	14:00	知内町	15:00	木古内町	
	15:00~新幹線出発				木古内駅に自家用車駐車
	16:22	木古内町駅	17:20	新青森駅	新幹線:木古内~青森
	新青森駅からホテルまでタクシー移動				
	17:30	新青森駅	17:50	アパホテル	
	18:30 より青森市内にて夕食				
11月24日	8:30 ニッポンレンタカー引取り、レンタカーで県庁へ				レンタカー利用
	8:15	アパホテル	8:30	青森県庁着	
	8:30~09:00 青森県庁減築工事視察				
	9:00	青森県庁	10:00	弘前市	レンタカーで移動
	10:00~12:00 弘前道の駅 サンフェスタ視察				※研修費 500円/人
	14:00	弘前市内	15:00	新青森駅	
	新青森駅でレンタカー返却				
	15:31	新青森駅	16:21	木古内駅	新幹線:青森~木古内
	木古内駅から自家用車で帰路音更へ				
16:40	木古内駅	22:30	音更町	高速道路利用	

# 公正クラブ視察調査名簿

役職名	氏名	備考
公正クラブ	かもがわ せいすけ 鴨川 清 助	民生常任委員
〃	まつうら なみお 松浦 波 雄	経済建設常任委員
計	2名	



【平成29年11月23日しりうち地域担い手産業センターにて】

# しりうち地域担い手産業センター

## 1 しりうち地域産業担い手センターとは

知内町では、就業研修や移住体験の方の居住スペースとして、「しりうち地域産業担い手センター」を建築しており、平成30年4月に完成予定。この担い手センターは、マンション感覚の個室で、入居者同士・地域住民との様々な交流ができるコミュニティエリアで構成された快適な空間となるとのこと。

移住者の希望に合わせ、短期・長期での利用を選択できる。入居者は、平成29年11月から先着で受け付けている。

## 2 町が考えている活用例

- ① 農業・漁業での就業に向けた長期研修（最長2年間）
- ② 企業や農業法人などでの就業研修（最長1年間）
- ③ 各種就業体験・学生インターンシップなど（最長6か月）



## 3 施設の特徴

- ・ CLT (Cross Laminated Timber) パネル工法を採用
- ・ 全国初のカラマツ材を使用した CLT
- ・ 北海道内で初めての CLT 公共施設（北海道内の公共施設では初の CLT 建築物）
- ・ 原材料は道内産。加工もすべて道内で実施。
- ・ 接合部の金型を新たに開発「鋼板挿入ドリフトピン接合」
- ・ 単身用 1DK (37.24 平方メートル) が 3 部屋
- ・ 世帯用 1LDK (54.23 平方メートル) が 2 部屋
- ・ 生活に必要な最小限の家具は完備

## 4 所感

知内町は2017年度、1次産業の担い手確保に向けた研修・宿泊施設を、道内自治体では初となるCLT(直交集成板)パネル構造で建てる。これまでの経過は、16年度3月補正で予算を確保した上で、4—7月に実施設計、実証試験、地質調査を進め、10—2月に施工する。総事業費には2億3000万円程度を見込んでいる。

CLTは、集成材や合板など従来の木製製品と異なり、製材を繊維方向が直交するよう張り合わせ、集成加工したパネル状の建築部材。

今回新築するのは「しりうち地域産業担い手センター」。移住・定住を促すだけでなく就業人口も増やし、地域創生を図る。同町が力を入れる林業担い手確保の一環



でもある。

長期の滞在を視野に、単身用1DK(33m<sup>2</sup>)を3室、世帯用1LDK(53m<sup>2</sup>)を2室確保するほか、研修用コミュニティエリアの設置を構想。地域イベントでの利用を想定した、外部との一体的空間を目指している。

音更町も算出するカラマツ材の活用という点と、地域の担い手研修施設としてもユニークであり今後も注目していきたい。

■ CLT(直交集成板)パネルの厚み 約10cm

このパネルをボルトで繋ぎ合わせていく。(柱は使わない。)



■ しりうち地域産業担い手センターの工事現場



# 道の駅ひろさき サンフェスタいしかわ

小さいながらも、地域密着、女性の力で年間50万人の集客と  
7億円を売り上げる道の駅



## 1 設立の経緯

地域農業をめぐる情勢は規制緩和、価格破壊に加え、TPP交渉参加や産地間競争の激化や農家戸数の減少、担い手不足と高齢化の進行で活力は低下しており、加えてこの地区は極端にりんごと米に依存している現状から、その対応に万全を期すため「サンフェスタいしかわ友の会」を設立した。

## 2 設立の目的＝「顔の見える農業の展開」

状況を打開するため、産直センターを設置することにより流通の合理化農産加工品の増進及び需要の増進等、りんごと米だけでなく「地元で生産される新鮮で安全な本物の農産物」にこだわり地域農業の活性化と農家所得の向上を図る。

## 3 会員数

女性のみ133名

(ただし、近年、高齢化と農家戸数の減少により男性の加入も認めている。)

## 4 地域密着

この道の駅は、高速道路のインターの近くに位置するとともに市街地にも近い。この立地を活かし、地元の安全安心な農産物を地元の人が普段の食材として買いやすいよう、価格設定している。また、地元の人がここで地元のおみやげを買っている。このため、時期によって振幅のある観光客売上も地元の利用により年を通して安定した売上がある。

また、平成7年 青森県内3番目の道の駅指定を受けた。この道の駅は土地も建物もJA所有である。

## 5 年間の売上実績

- ・現在の来場者50万人、売上7億円（1200円～1300円／一人あたり単価）  
うち、農家が出した野菜の売上8000万円、りんごの売上5000万円
- ・加工品の売上1億円（漬物、豆腐、もち、パン、ケーキ）
- ・おみやげの委託販売が売上の主力

当初は農産物の販売のみであったが、農家のかあちゃんの漬物、豆腐、もちなどの加工販売を行うようになった。このように店舗では、特産のりんごをはじめ、その日に採れた新鮮な農産物、おいしい特産品を販売している。そして一番の売りである地元農産物を利用した特徴ある加工品は豊富な種類を取り揃えて販売するとともに、弘前を代表する銘菓を所狭しと取り揃えている。

## 6 所感

25年前、農村地帯の農家の女性は、ほとんど現金収入がなかった。そこで、農協としてなんとか農家女性に現金収入を、との思いでそれぞれの農家が作っていた野菜の販売所を開設した。その組織が「サンフェスタいしかわ友の会」という生産者組織である。

現在の従業員は、店内26人、加工30人（正社員は3人）である。「農家のかあちゃんに現金を」からはじまった道の駅、それが今では販売以外にも、地域女性の雇用の確保にも貢献している。

音更町も新たな道の駅を模索中であるが、事業を貫く理念というものがいかに大切かというのを改めて認識した。



文責：松浦波雄